

1面	9月定例会ダイジェスト
2~3面	ピックアップ本会議
3面	本会議・委員会を傍聴しませんか 県議会だよりに寄せられたご意見 県議会クイズ
4面	ピックアップ委員会 県議会トピックス 写真コンクール「秋の部」入選作品 題字コンクール作品募集 写真コンクール作品募集

# しずおか県議会だより

令和5年度県議会だより題字コンクール 特選作品 作者/杉山 ひなのさん(沼津西高校)

令和6年11月17日(日)



令和5年度県議会だより写真コンクール 秋の部特選「秋色を楽しむ」

撮影者/小栗進さん(浜松市中央区) 撮影地/菊川市

## 9月定例会ダイジェスト

9月定例会は、9月19日から10月11日までの23日間開催しました。知事から、令和6年度静岡県一般会計補正予算案など22議案が提出され、議案等の説明がありました。

5日間にわたる代表質問および一般質問では16人の議員が登壇し、知事の政治姿勢やリニア中央新幹線整備に関する県の対応、農業振興施策など県政全般にわたり活発な議論を交わしました。

9月30日には、盛土等の規制に関する条例等検証特別委員会委員長が調査結果を報告して知事に政策提言を行いました。

その後、7つの常任委員会で議案の詳細な審査を行い、10月11日の最終本会議で常任委員長の審査結果報告の後、採決を行い、全ての議案を可決、同意しました。

また同日、議員提出議案1件と国に対する4件の意見書案が提出され、全て可決しました。

なお、令和5年度決算は、決算特別委員会に付託し、閉会中も継続審査することになりました。

### 意見書 (件名)

- ◎ 防災・減災、国土強靱化対策のさらなる推進を求める意見書
- ◎ 地震財特法の延長に関する意見書
- ◎ 人生の望ましい最期を意思形成する「ACP」の理解醸成を求める意見書
- ◎ ひきこもり支援に関する法整備を求める意見書

意見書の全文は、  
「しずおか」  
をご覧ください



### 可決した主な議案

◆ 静岡県立青年の家等の設置、管理及び使用料に関する条例の一部を改正する条例  
静岡県立青年の家等の受益者負担の適正化を図るための条例の改正です。

◆ 令和6年度静岡県一般会計補正予算  
37億2000万円

### 主な事業

#### ■国庫補助金の内示等 <36億7700万円>

- ・電子処方箋等の導入を行う医療機関等への支援
- ・勤務医の労働時間縮減を行う医療機関への支援
- ・介護ロボットやICT機器導入を行う介護事業所への支援
- ・新興感染症等対応医療機関の施設・設備整備に対する支援
- ・MaOIプロジェクトの事業計画前倒し
- ・食肉センター再編整備工事

ほか

#### ■その他 <4300万円>

- ・能登半島地震を踏まえた住宅耐震化への支援
- ・宿泊業の人手不足解消に向けた支援
- ・短期間に複数回被災した世帯に対する災害特別見舞金の支給
- ・再生可能エネルギー等の導入拡大に向けた基礎調査の実施
- ・静岡茶の輸出拡大に向けた海外展示会出展への支援

ほか

県議会ホームページのご案内

議会の日程や質問議員・項目、インターネット中継、キッズサイト、議員の紹介、本会議や委員会の会議録などを掲載しています。



インターネット版県議会だよりのご案内

パソコンやスマホでもご覧いただけます。(音声による「声の県議会だより」もあります。)



県議会公式X(旧Twitter)のご案内

議会の情報をいち早くお届けします。





ピックアップ  
本会議

9月定例会本会議の質問と答弁から

代表質問



9月25日午前  
小沼 秀朗  
(自民改革会議)



9月25日午後  
良知 駿一  
(ふじのくに県民クラブ)



一般質問



9月26日午後  
遠藤 行洋  
(無所属)



9月26日午後  
市川 秀之  
(自民改革会議)



9月27日午前  
河原崎 全  
(自民改革会議)



9月27日午前  
松井 優介  
(ふじのくに県民クラブ)



9月27日午後  
土屋 源由  
(自民改革会議)



9月30日午前  
杉本 好重  
(自民改革会議)



9月30日午前  
佐地 茂人  
(自民改革会議)



9月26日午前  
蓮池 章平  
(公明党静岡県議団)



9月30日午後  
鈴木唯記子  
(ふじのくに県民クラブ)



9月30日午後  
植田 徹  
(自民改革会議)



10月1日午前  
岩田 徹也  
(自民改革会議)



10月1日午前  
鈴木 澄美  
(自民改革会議)



10月1日午後  
阿部 卓也  
(ふじのくに県民クラブ)



10月1日午後  
中谷多加二  
(自民改革会議)



※二次元コードから各議員の質問の録画中継をご覧ください

くらし・環境

リニア中央新幹線の整備

**Q** 水資源問題及び水資源の利用に影響が出た場合の対応について知事の考えは。

**A** 現地を視察し、改めて水資源と自然環境の保全の必要性を強く胸に刻んだ。リニア整備との両立を目指し、

JR東海との対話をスピード感を持ちながらも丁寧に進める。将来、水資源の利用に影響が出た場合に備えてあらかじめJR東海との間で補償内容などを定める協定等を締結することが必要であり、その際は国の関与も引き出していく。今後、補償等についての協議の進め方も検討していく。

ライドシェアの導入拡大

**Q** 導入に際し地域が抱える課題に対する支援策は。

**A** 市町等では導入や拡充に対する意向は強いが、導入方法の理解不足やアドバイザーの不在等が課題となっ

文化・観光

観光分野のデータ活用

**Q** 県が収集している人流データや分析結果をどう活用していくのか。

**A** 人流データの活用を促すため市町にデータサイエンティスト等を派遣し、旅行者の属性や行動履歴等を把握するデータカルテの作成・誘客戦略の策定等を支援している。今後はデータ収集や分析体制をさらに充実させるとともに、市町、地域連携DMO、事業者等による人流データの

用語解説  
ライドシェア  
一般ドライバーが自家用車を活用して有償で利用者を運ぶこと(いわゆる「米国版ライドシェア」)。令和6年3月には、タクシー事業者の管理の下で、自家用車・一般ドライバーを活用した運送サービスの提供を可能とする「日本版ライドシェア」が創設された。また、バス事業やタクシー事業による輸送手段の確保が困難な場合、市町村やNPO法人などが自家用車を活用して提供する旅客運送を「公共ライドシェア」という。県では、誰もが移動に困らない交通手段の確保を目指し、「公共ライドシェア」を推進していく。

しずおか遺産の活用促進

**Q** 活用に向けた取り組みは。

**A** 進に向けた取り組みは、地域に点在する文化財を認定するしずおか遺産は、郷土愛を育む機会の創出や新たな観光の切り口としての活用を目指している。今後はインバウンド促進に向けた外国語版PR動画制作のほか、しずおか遺産をたどるスタンプラリーの開催、秋葉街道のサイクリングルートにしずおか遺産を組み込んだ周遊観光モデルの造成などにより、さまざまな方々に関心を持ってもらえるよう来訪を促していく。



しずおか遺産をたどるスタンプラリー

産業

大学生の地元就職

**Q** 大学生のUターン就職率低下への認識と対策は。

**A** 県外大学との就職支援協定締結などに取り組んでいるが、生活面での利便性重視や志望企業・職種の少なさを理由にUターン就職率は厳しい状況にある。まずは県内に魅力的な企業があることを知ってもらうため、Uターン就職で活躍している事例をホームページで紹介している。また、インターンシップについて企業が積極的に導入できるように新たに相談窓口を開設したところ、導入につながった事例も出ている。



県内外の若者向けに県内企業等の情報を発信

県とスタートアップとの共創

**Q** 県の施策との共創についてどのように考えるか。

**A** スタートアップは地域経済活性化に大きな役割を果たすとともに、社会・地域課題の解決にも貢献し得る。養殖マアジの大量死発生メカニズムの解明やセルロースの特性を活かした車体の軽量化を進めており、今後も県内経



済発展に結びつく成功事例の創出を図る。行政や金融機関の主導によりスタートアップのコミュニティが立ち上がったおり、交通、福祉、教育等、さまざまな社会課題の解決に向け積極的に連携していく。



県内企業とスタートアップとの共創の場  
「TECH BEAT Shizuoka(テックビートしずおか)」

### 農作物の新品種開発

**Q** 気候変動に対応した新品種開発への取り組みは。

**A** 農林技術研究所において、高温でも栽培が可能なワサビやミカンの耐性品種を開発・普及し、現在イチゴ等を品種開発している。また県が保有する茶やイチゴ等の遺伝子情報をデータベース化することで品種の選抜を効率化し、開発期間の短縮を目指している。さらにAOIPARCの次世代栽培装置を活用し、開発期間を短縮する技術研究に取り組み企業を支援している。こうした研究成果を着実に生産者に普及させていく。

### デジタル林業の普及推進

**Q** FAOIPROJECTの評価と今後の展開は。

**A** 県内各地の生産団地のうち、丸太の生産現場において衛星情報を活用した測量機器の導入により作業時間が

半減したほか、生産状況等の一元管理によりトラック輸送の最適化が図られるなど、森林・林業のイノベーションが動き出したと評価している。今後は、取り組みの成果を活用モデルとして県全域に展開するとともに、IT分野のスタートアップ等の参画を促進することで新技術を取り入れさらなる効率化を図っていく。

**用語解説**  
FAOIPROJECT  
林業の効率化や省力化、安全性の向上を図るために、デジタル情報基盤の整備やドローン、丸太計測アプリなど先端技術の現場実装などに取り組み。令和4年度に発足したFAOIは、Forestry Action Open Innovation 略。



原木生産情報のシステム入力の様子

### エネルギーの安定供給

**Q** 原子力発電を含めたエネルギーの安定供給への考えは。

**A** 再生可能エネルギーの導入拡大に積極的に取り組んでおり、県内の電力消費量に対する比率は約4分の1まで拡大した。特に太陽光発電は、中小企業向けの設備導入への助成のほか、事業者が行う太陽光発電と蓄電池やグリ

ーン水素を組み合わせた自立分散型システムの構築へも支援している。また風力発電や水素の導入可能性等を調査していく。原発は県民の安全・安心のため、中部電力に徹底した安全確保を求めている。

**用語解説**  
グリーン水素  
風力・水力・太陽光などの再生可能エネルギーをつかって水を電気分解して生成された水素のこと。酸素と結びつけることで発電したり、燃焼させて熱エネルギーとして利用したりすることができ、製造過程及び熱エネルギーとして利用する時の双方で二酸化炭素の排出がなく、脱炭素の取り組みを促進するエネルギーとして注目されている。

## 教育

### 教育に対する知事の姿勢

**Q** 本県教育の現状に対する認識と目指す方向性は。

**A** 社会が急激に変化する時代においては、自ら課題を認識し解決する力が必要であるため、本県の未来を切り拓く多様な人材の育成が何より大切である。また郷土愛を持って本県に貢献する人材の育成や、教育DX推進による学びの高度化等も重要である。特別な支援が必要な児童生徒が急増しているため、個々の実情に沿った支援の充実が喫緊の課題である。こうした本県教育の方向性を示す教育大綱を令和6年度中に策定する。

### 部活動の地域連携・地域移行

**Q** 現在の進捗状況と課題を踏まえた今後の対応策は。

**A** 現在、18市町で2000人を超える部活動指導員の配置が計画されるなど、取り組みが徐々に拡大している。生徒が著しく減少し部活動の存続が難しい地域では地域連携・地域移行の必要性が高まっているが、容易に解決手段を見いだすことは困難である。このため、まずは賀茂地域で先進事例を参考に広域連携の仕組みづくりを検討するなど市町との調整の下で課題解決に向けた取り組みを進め、その成果を県内市町と共有していく。

### 県立高校教員の働き方改革

**Q** 教員のさらなる働き方改革に向けた取り組みは。

**A** 令和6年度はデジタル採点システムの導入や迅速な情報共有のためのチャット活用等、業務効率化を図っている。また学校以外が担うべき業務や必ずしも教員が担う必要のない業務に関する役割の見直しに向け、部活動指導や交通安全街頭指導等について保護者や地域との連携・協働を進めている。令和8年度からは、学校事務職員の業務を削減しつつ教員に代わって広報や防災等の業務を担うことで教員の負担軽減を図る。

## 安全・安心

### 橋梁のメンテナンス

**Q** 橋梁を適切に管理し、サイビズレベルを維持するためにどう取り組むか。

**A** 県管理の約3千の橋梁のうち約6割が建設から50年を経過し、今後もコストの平準化や点検、診断、措置、

記録といったメンテナンスサイクルの持続が重要である。そのため点検や修繕で蓄積したデータを分析し、劣化予測の精度向上を図りサイビズレベルを維持する予防保全型管理に努める。またメンテナンス効率化に向け、画像計測やAI診断、レーザー塗膜除去等の新技術の活用も進める。

### 災害ケースマネジメントの取り組み

**Q** 条例規定や組織形成に取組みむべきではないか。

**A** 被災現場で各分野の方々材の育成に取り組んでいる。また被災後、早期から医療や福祉、住居、生活等さまざまな分野に横串を刺し、切れ目のない支援を図る総合調整部門を県災害対策本部指令部に設置すべく、体制の見直しを図っている。令和5年度に県地域防災計画に災害ケースマネジメントの運用について市町を支援すると位置付けており、条例による規定を含め体系的な整備を検討していく。

### 用語解説

**災害ケースマネジメント**  
被災者一人一人に寄り添い、生活全体における状況を把握した上で、それぞれの課題に応じた情報提供や支援を行い、被災者の自立・生活再建が進むようマネジメントする取り組み。

## 医療・福祉

### 出会い・結婚・出産サポート

**Q** 「ふじのくに出会いサポートセンター」の実績を踏まえた今後の取り組みは。

**A** 令和4年度のセンター開設から63組が成婚に至っているが、新規会員の継続的な確保が課題である。このため、企業訪問による周知や婚活イベントの開催に加え、親世代に向けたセミナーの拡充や友達紹介制度等を検討する。また女性が安心して妊娠・出産できるよう、現在実施している県独自の育児休業給付に加え、さらなる男性育児休業の取得促進に向けた施策の検討を進める。

### 自殺対策の推進

**Q** 自殺者の現状分析と自殺防止に向けた取り組みは。

**A** 特に自殺者が増加している若年層と働き盛り世代への対策を強化している。若年層への対策として24時間対応の電話相談やLINE相談、インターネットの検索連動型広告の活用のほか、自殺に至るリスクを早期に把握するための学校や市町に助言する専門チームの設置を検討している。働き盛り世代への対策として、企業の労務管理担当者向けに専門知識を持つ県職員が実践的な講話を行い、自殺対策の基本認識の理解促進を図る。

### 県議会だより(6月定例会号)に寄せられたご意見

- 文教警察委員会の記事で初めて「さくらセーフティ作戦」を知り、静岡県警察HPで「さくらセーフティ作戦」を見てみました。政治的・経済的・社会的な観点から、積極的に啓発活動をして、ひとりひとりが「自分ごと」として捉えてほしいと思います。
- 動物愛護センターが開所予定という記事を読みました。我が家では犬や猫を飼っていませんが、高齢の飼い主増加といった課題があることを知りました。殺処分ゼロに向けて、大きな貢献をしていただける施設になることを願います。

**県議会クイズプレゼント付**

9月定例会では、地域に点在する文化財をつないだ歴史ストーリーを認定し、郷土愛を育む機会の創出や新たな観光の切り口としての活用を目指す「○○○○遺産」の取り組みについて質問がありました。

※○に該当するひらがな4文字をお答えください。  
(ヒントは2面にあります)

応募フォームはこちら

**「応募要領等」**

① 答え②住所・氏名・年齢・電話番号を明記の上、③県議会だよりのご感想や県議会へのご意見を添えて、12月2日(月)までに4面欄外の政策調査課へ、ハガキ、FAX、Eメール又は応募フォームでご応募ください。

正解者の中から抽選で20名の方に、「TEA豚3種セット」をお送りいたします。

なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

※個人情報商品の発送と読者層の調査のために使用します。

■プレゼントのご紹介  
清水のお茶を飲んで育った「TEA豚」。生産性や省力化よりも、豚が快適に過ごせる環境づくりを行うため、運動スペースを確保し、新鮮な空気の下で生活できるようにしています。今回は、ハム・ベーコンを各約250g、ウインナーを約200g、3種類をセットしてお届けします。

TEA豚3種セット (写真はイメージです)

**本会議・委員会を傍聴しませんか**

**12月定例会**

開会	12月 2日
質問	12月 5日・6日・9日・10日・11日
常任委員会	12月13日・16日
閉会	12月20日

※日程は、今後変更になる場合があります。本会議、委員会ともに県庁本館4階で傍聴できます。

(日程および傍聴に関する問い合わせ先 県議会事務局議事課 TEL 054-221-3481)

傍聴案内動画



